

学年テーマ	有済発「人権 21」	6 年
-------	------------	-----

指導者 山口昌則

1, 日時：平成 14 年 6 月 20 日（木）6 校時 1345～1430

2, 場所：6 年教室

3, 単元について

21 世紀を切り拓きその担い手となる児童にとって現在の社会は、「誰もが幸せに生きていける社会、一人一人の基本的人権が尊重される社会」として完全に満たされている状態にあるとはいえない。またそうした社会は、世代を超えて受け継がれ築き上げていくものであり、一人一人が自分の問題として課題を持って作り上げていくものである。

その素地となる人権感覚や人権に対する認識を学校教育の場において総合的に学習し育てていく意義は大きい。

この取組は、有済校における全教育活動と連携をしながら進めることは言うまでもないが、とりわけ「総合的な学習の時間」の中で「そもそも人権とは何か。」「すべての人が安心して暮らすことができる社会とはどんな状況でなにが必要なのだろう。」といった素朴な疑問から課題を設定し自らその課題解決に向けて主体的に活動することで、めざすべき社会の実現とその主体者となる児童の育成を図っていきたいと考え本主題の設定をした。

有済小学校の 6 年生が、学芸会で人権劇に取り組みはじめて今年でちょうど 5 年目にあたる。この人権劇の取組と関連させながら進めることでさらに児童の人権に対する認識を高め、心情面からも主題に迫っていきたいと考える。

また地域や保護者の方に協力してもらったり、学んだ成果をもとに啓発活動や問題提起もしたりしながら学習を深めていきたい。そして家庭においても人権のことが話題になり、日常生活の場で人権問題が身近に受けとめられ関心を持ちつづけてくれるように願っている。その結果、児童一人一人が人権に対して認識をより一層深め、人権感覚を養いながら豊かな人間性を磨き「豊かな自分づくり」をめざす生き方を追求してくれるものと期待している。

「人権の世紀」といわれるこの 21 世紀の社会を伸び伸びと心豊かに生き抜き、誰もが安心して暮らせる差別や偏見のない社会を築く主体者として活躍してくれるように実生活と照らし合いながら活動を進めていきたい。

最後に、この学習の成果をもとに今の自分自身を振り返り、将来の生き方を考え、地域の一員として人権が尊重されるまちづくりに貢献できる人間として成長してくれることを期待している。

4, 単元名： 有済発「人権 21」～「人権ってなんだろう。」～

5, 単元目標

であい	- 身の回りにある人権に関する問題に関心を持ち、人権が尊重される社会について考えようとする。 - 人権に関する事象や問題との出会いから課題を見つけ追究していく中で人権の尊重される社会の大切さに気づく。
探 究	- 自ら設定した課題解決に向けて追究活動を進める中で、自分の発想や工夫を生かして情報を活用し自分の考えをまとめる。 - 自分が調べて分かったことや話し合いなど交流活動を通して深めた考えを意欲的に工夫して表現する。
自己実現	- 自己の学習活動をめあてに沿って振り返り、客観的に自己評価しながら活動を進める。 - 人権が尊重される社会を築くために自分にできることを考え目標を持って、日常生活に生かし取り組んでくことができる。

6, 単元構成：有済発「人権 21」…全 110H（時間）

1 学期…「人権ってなんだろう。」 48H（人権に関する事象や問題との出会いと人権に関する課題追究活動）

2 学期…「人権劇を発表しよう。」 43H（学習の成果を踏まえた心情面など内面に根ざした学習活動と表現）

3 学期…「人権作品をつくろう。」 19H（人権に関する学習の成果を生かした作品づくりと生き方の追求）

7, 児童の実態

様 子	本学級の児童は、少人数の学級である。互いに気心も知れている良さもあると同時に少人数のために集団思考を通して互いの価値観を出し合いながら深めていく活動が進めにくいところがある。ただ話し合い活動における姿勢は、友達の意見や発表を受けて応えるといった「伝え合う力」の育成に5年生から継続して取り組んできており、その場の状況に応じて質問や感想・意見など少しずつではあるが進んで自分の考えをみんなの前で言えるようになってきている。
学び方	追究活動では、5年生の「なすあり」学習「MY TOWN 京都祇園 21」の経験を生かし、めあてに沿って活動を進める中で友達と協力したり、アンケートやインタビュー、そして現地調査など体験的に情報収集したりすることができる。情報活用については、インターネットを検索して情報を集めたり、学習の成果をホームページとしてまとめたりする経験もしている。さらに学級内での話し合い活動を学校間交流の場でも生かしテレビ電話やネットワークを使ったテーマ別のグループビデオ会議も経験しており少しずつメディアリテラシーの向上も見られるようになってきている。自己評価活動は、社会科新聞づくりなど他教科での活動とも連携しながら進めており、少しずつ自分自身を客観的に見つめ反省を活かして事後の追究活動やまとめの作業に生かすことができるようになってきている。ただそのときの進み具合や出来映えなど思い通りにならないときなど気分によって自己評価を生かすことが出来ない場面も見られるので学習の進め方や情報活用の仕方など支援をしていく必要がある。
テーマ 生き方	人権に対する認識については、主に学校全体で取り組んできた人権教育や学習センター事業での活動などを通して得た部分と現在進めている社会科における歴史学習でふれてきた程度である。 ただし昨年の「なすあり」学習の中で福祉をテーマに学習したグループの児童は高齢者や障害者など福祉面から人権問題について考える機会があったり、伝統文化グループの児童からは、「お神輿を女性は担げないのは差別ではないか。」と疑問を持ち続けているといった現状があったりする。 人権感覚についても上記の人権に関する学習に支えられている客観的な部分と友達同士の関わりなどで見せる身近な自分自身の問題としての部分があり、とりわけ友達関係における相手の立場や考えを尊重する姿勢やいじめの問題などについての考え方や感覚に未熟な点が多く見られる。 そこで自尊感情を育てて自分自身に誇りを持たせ、自分を大切に思う心を養い、友達など身近にいる相手も自分と同じように大切な存在であることについて気づき考えていける心を育てていきたいと考える。そのためにも様々な事象や多くの人との「であい」の中で、その時々の人々の願いやおもいに心を寄せて、目に見える部分だけでなくその背景や原因を考えながら自分自身の生き方と照らして考えていく態度を大切にしていける必要がある。人権劇については、5年目にあたり有済校の特色ある最高学年が取り組むテーマとして児童に浸透してきているため「今年もやるぞ。」という意気込みや姿勢は児童の言動から感じられるので大事に育てていきたいと考えているところである。

8, 焦点化する単元の課題

自己評価を生かし、交流活動を通して自分のおもいを深めながら追究する。

自分が決めためあてにそって自分の活動を振り返ることで自らの学びを支える自発性や自主性を養う手だてとしていきたい。さらに後述する「育てたい力」についても評価項目を設定することでめあてとともに指導者の意向にそった活動の振り返りも満たしながら自己評価活動を進めていきたい。この自己評価活動を繰り返すことでめあての設定についても指導者から見た客観的な目標設定ができる力を養っていけるのではないかと考える。学習過程における児童とのカンファレンスや児童のつぶやきなどに見られる自己評価の場面での言動も大切にしながら自らの学びを支える手だてを重視していきたい。さらに学習過程での気づきを膨らませたりや課題追究の意欲の継続や多様な価値にふれ多角的な視点から学習を展開したりするいわゆる補充・深化・統合の活動を友達同士の話し合いや学校間交流などで進めていけるように工夫していくことが必要であると考え。いろいろな考え方や生き方を受けとめながら自分のおもいを確かめ深めながら課題追究をする姿をめざして評価活動と交流活動の支援をしていくことが大切である。

9, 焦点化する本時の課題と研究の視点

焦点化した本時の課題

自分の方法で調べた人権に関する課題について自分の考えを付け加えてわかりやすくまとめ発表する。
多様なものの見方や考え方や意見交流しながら自分の考えを確かめ人権についての認識を深めていく。

本時は、「人権が尊重される社会をつくれるか。」というテーマに沿って各自が課題設定し自分なりの方法で課題追究したことを短くまとめて発表し、その発表を受けて話し合い活動をしながら自分の考えを確かめ人権についての認識を深めていく。

この活動では、事前のしっかりとねらいをもたせること、課題追究を進めていく過程で常に問題意識を持ちながら学習を進めていくことの2点が重要である。

したがってその過程における学習支援の在り方についても指導者として慎重に評価規準に照らして確かめながら進め本時の活動へとつなげていきたい。

また個別の課題追究であっても、学級全体としての共通テーマ（前述）をもとに活動を進めていくことで「～のためには～が問題で、その解決のためには～が重要である。」とか「～を実行していくことは重要であるが～に問題があるのでその実現は難しいのではないか。」といったように根拠を持ちながら共通課題を解決していけるような意見の集約が見られるように発問や話し合い活動を工夫して支援して行くことが重要である。

本学級は、10名と少ない人数であるが、より主体的に活動を進めていけるようにさらに小グループに分けて話し合い活動を実施し、最後に各グループ間の交流をして意見のまとめをしていきたい。

また今回は、各グループに教師や保護者も参加しコーディネートしながらそれぞれ違う立場や世代の意見との交流を大切に考えを深めていけるように工夫していきたい。

その際、児童が大人に頼ってしまうことがないようにあくまでも一つの意見として発言すると同時に、児童が明らかに間違った考えを発言していても「それは間違っている。」という指摘は控え、そうした意見も話し合い活動の材料として取り上げながら進行し自分の考えの矛盾に気づいたり正したりできるように進めていきたい。

意見交流の場が、発言内容について批判されるような場にならないように配慮するとともに自分の発言に責任をもつことの大切さや意見や考え方は話し合い活動を通してどんどん変化することは何ら問題ではないといった点を事前に共通理解しておきたい。同時に社会には、いろんな意見や考え方を持つ人がおり、そうした多様な価値観の中で社会が構成されているといったことも考える場としていきたい。

研究の視点（課題解決の手だて）

ア、課題 について

人権問題についての追究活動は時数的にも充分満足のいく保障ができないが、その限られた時間の範囲でつかんだ事実や価値をもとに自分なりの考えを入れて発表できることを重視していきたい。

ただしひとつひとつの追究活動に脈絡がなく、ねらいが見えない活動をしていないか見極めながら発表活動を見守り、支援や評価の在り方を探していきたい。

イ、課題 について

先の追究活動の不充分さやその認識不足からくる浅い結論や考え方を児童がしてしまう場合も考えられるのでそのことを踏まえた上で話し合い活動では、「～ならばどうだろう。」とか「本当に無理だろうか。」あるいは「そのように簡単に実現するものだろうか。」と投げかけながら自らの気づきを誘うとともに思考を深めさせていきたい。また事後の追究活動への意欲付けや活動の意味付けがはかれるような話し合い活動となるよう児童の発言を見守り、支援や評価の在り方を見極めていきたい。

ウ、本時の活動を振り返り、めあてや評価項目にそって自己評価活動ができているか見極めていきたい。

10, 年間指導計画

学期	月	単元名	単元のねらい	主な活動内容（h）	児童の意識の流れ
一学期	4	第一次 人権ってなんだろう（48h）	身近な人権に関する事象や問題に関心を持ち、自ら課題を設定しその解決に向けて追究活動を行うことができる。	なすあり学習について（1h） 学習のめあてと進め方について（1h） 人権ってなんだろう（6h） （世界人権宣言・憲法 11・13・14・19・21・25・28・97・98 条・国際人権規約など） （差別と区別について・予断と偏見について） 人権は守られているのだろうか。（1h） 人権について調べよう、考えよう （人権が守られていない事実にはどんなものがあるのだろうか） ・ 身近にある人権について（4h） ・ より広い視野から見た人権について（8h） （性によるちがい・障害者・外国人・同和） 人権問題について個別のテーマを見つけよう。（2h） テーマに沿って課題追究しよう。（13h） 世界に目をむけてみよう。（6h） （人種・民族・戦争など）...立命館大学国際平和ミュージアム 大阪人権博物館にいてみよう。（6h）	今までの学習を生かしていこう。 何をしようかな。 私にとって人権ってなんだろう。 人権とは何？ 人権が守られていないことがあるぞ。 なぜだろう。どうしてだろう。 課題を見つけよう。 課題を追究しよう。 みんなで友達の課題について考えてみよう。 さらに追究していこう。
	5				人権についてもっと調べてみよう。
	6				
	7				
二学期	9	第二次 人権劇をしよう（43h）	個別の追究活動をまとめ、工夫して意欲的に人権劇に取り組み、その成果を反省してまとめ、より人権意識を高めながら人権に尊重の考えを広く発信することができる。	課題追究したことをまとめよう。（6h） 調べたことをみんなに伝えよう。（3h） むくの木集会「こころのつち」...人権のまちづくり... 人権ポスターを描こう（4h） 人権劇で何を訴えようかな？（1h） どうしたら伝わるかな？（1h） 人権劇の準備・練習をしよう。（17h） 人権劇の発表をしよう。（1h） 人権劇で自分達のおもいが伝わったかな。（1h） 学習の成果をまとめて発信しよう。（9h）	課題追究したことを振り返ってまとめてみよう。 調べたことをみんなに伝えて考えてほしいな、意見を聞きたいな どんなポスターにしようかな 学習してきたことを生かして人権劇を作っていこう。 何をみんなに訴えようかな。 どうしたら伝わるだろう。 みんなで練習をがんばろう。 しっかり発表するぞ。 発表を振りかえってまとめてみよう。 ホームページをつくろう。
	10				
	11				
	12				
三学期	1	第三次 人権作品をつくろう（19h）	いつでも学んだことを振り返り自分自身の生き方を見つめると共にみんなにも訴えたことを思い出してもらるように学習の成果を作品にして仕上げまとめていくことができる。	学習の成果を作品にして残そう。 どんな作品にしようかな。（1h） いつまでも残る作品をつくろう。（13h） 完成作品をみんなに発表しよう。（4h） 一年の学習を振り返ろう。（1h）	学習の成果を生かして作品をつくろう。 どんな作品にしていこうかな。 どんな工夫をしようかな。 心を込めてつくっていこう。 いつまでも残る作品に仕上げていこう。 出来あがった作品をみんなに紹介しよう。
	2				今年度の活動はどうだったかな、この活動を生かしていこう。
	3				

他教科・領域及び特別活動などとの関連	主な支援・留意点	主な観点別評価と育てたい力		
		課題の設定や解決への 関心意欲態度	活動や体験を通じての 思考力・判断力	生き方を振り返り行動 できる技能・表現力
社会科 同和問題にかかわる指導 人権に対する認識を育てる指導（年間通して） 国語「聞く」ということ 問い合わせの手紙 敬語の使い方 ガイドブックを作ろう 学級討論会をしよう 学級活動「養護育成」 立命館大学国際平和ミュージアム見学 竜安寺拝観 大阪人権博物館見学	・既習の学習方法を振り返り、生かして学習していくようにする。 ・人との出会いや事象などと出会いながら人権について考えていくようにする。 ・地域や家庭と連携しながら進めていくようにする。 ・多様な人権問題についてふれ、多様な視点に立って人権問題について考え課題設定できるようにする。 ・個別のテーマ設定からグループで追究活動できるようにする。 ・自分で見つけた課題を自分の考えた方法で追究し解決していくようにする。 ・学校間交流など意見交流を通して追究活動をより豊かにし認識を深めていくようにする。	・人権について関心を持ち、人権について考え課題を見つけようとする。（情・問・ア） ・自分なりの方法で必要な情報を収集・選択し考えに生かしていくようにする。（情・イ） ・人権尊重の精神の大切さと社会の現状に気づき進んで課題追求していこうとする。（情・イ）	・身近なところから人権に関係する事象や課題を見つけることができる。（情・ア） ・テーマに沿って工夫して追究活動をつづけ自分の考えを深めることができる。（問・ア） ・自分の考えを話し合い活動でさらに深め、よりよい生き方を追究することができる。（問・イ）	・自分の生き方を振り返り人権に関する問題について発表する。（問・ア） ・追究活動で調べたことを生き方に照らして考え工夫してまとめることができる。（自・ア） ・友達に自分の思いが伝わるように工夫して発表したり意見交流したりすることができる。（情・イ）
国語 二つの意見から「推測する」ということ 生き方や考え方を読み取ろう 目的に応じて描こう むくの木集会 「こころのつち」 学芸会 人権劇 国語 幹事辞典を使って	・自分のよさを生かしているいろいろな方法でまとめていくようにする。 ・全校集会などで学習したことや考えたことを分かり易く伝えていくようにする。 ・セリフや役柄を工夫して表現していくようにする。 ・役割分担や協力しながらよりよい発表ができるようにする。 ・他者評価を生かしながら活動を振り返ることができるようにする。 ・ファイルにあるデータを使って工夫してまとめ発信していくようにする。	・課題意識を持って人権劇に挑戦し、見る人に内容が伝わるように考えて表現していこうとする。（自・イ） ・学習の成果を広げて生かしていこうとする。（問・イ）	・課題追究したことをもとに考え方をまとめ、より確かなものとするができる。（問・ア） ・人権劇のセリフや役柄を通して心情に迫りながら人権について認識や考え深め正しい判断力を身につけることができる。（自・ア・イ）	・受け手を意識してまとめ、分かり易く伝えることができる。（情・ア） ・自分の思いや願いが伝わるように工夫して練習し、表現していこうとする。（問・ア） ・学習の成果をホームページにまとめて工夫して発信することができる。（情・ア）
国語 感動を言葉に 平和のとりでを気づく 自分の考えを発信し様 自分で選んで「いきる」 図工 気持ちをほる、刷る 未来に生きるわたし	・活動を振り返り、学習の成果を生かして作品に仕上げていくようにする。 ・丁寧に細部にこだわりながらより良い作品に仕上げていくよう分担を決めて作業にあたるようにする。 ・作品を披露しながら、作品にこめたおもいや願いをまとめ発表するようにする。 ・学び方や生き方を振り返り、生かしていこうとする態度につながるようにする。	・学習の成果を生かした作品づくりをしていこうとする。（問・ア） ・一つ一つの作業を丁寧に進めより良い作品に仕上げていこうとする。（自・イ）	・見る人にテーマが伝わるような作品を考える。（情・イ） ・作品づくりを通して学習の成果を振り返り考える。（自・イ）	・細かいところに注意して丁寧に作品を仕上げるができる。（問・ア） ・思いや願いを込めて完成した作品の発表をすることができる。（情・イ） ・学習を振り返り、自己の生き方に生かして行くことができる。（自・イ）

高学年部会評価規準表の育てたい力の略称 （ 情...情報活用能力、問...問題解決能力、自...自己評価力 ）

9. 本時の目標

自分の方法で調べた人権に関する課題について自分の考えを付け加えてわかりやすくまとめ発表する。
多様なものの見方や考え方と意見交流しながら自分の考えを確かめ人権についての認識を深めていく。

10. 本時の展開

主な活動内容と意識の流れ			支援・留意点	評価
本時のめあてを確認する。 人権が尊重される社会をつくれるだろうか。				
個別のめあてを確認する。 活動内容について確認する。			ワークシートのめあてを確認する。	めあてをもって学習に望んでいるか。(自 - ア) 【自己評価力】
中間発表会をする。グループ別			一人2分で発表する。 タイマーを用意して時間を意識する。	受け手を意識して工夫して発表できているか。 (問 - ア)【情報活用能力】
発表をする	伝えたいこと(事象や自分の考え)を、 要点をまとめて発表する。		励ましカードで他者評価をする。	要点を絞り考えながら友達の発表を聞くことが出来たか。 (情 - イ)【思考・判断力】
発表を聞く	友達の発表を、要点をまとめながら聞く。		各グループに教師 1~2 名、 保護者 1~2 名参加する。	友達の発言を受けて自分の考えを進んで発言をすることができたか。 (情 - イ)【思考・判断力】
発表を受けてテーマに沿って話し合い活動をする。 343人の3グループに分かれて話し合いをする。			司会を決める。 司会進行カードを用意する。	話し合い活動を通して自分の考えを深めることができたか。 (情 - イ)【思考・判断力】
1グループ	2グループ	3グループ		
司会を決める。	司会を決める。	司会を決める。	一言結論カードをもとにグループの発表をする。	学習活動を振り返り、めあてや評価項目にしたがって自己評価できたか。 (自 - ア)【自己評価力】
意見交流をする。 聞く・話す	意見交流をする。 聞く・話す	意見交流をする。 聞く・話す	ワークシートに自己評価をする	
意見をまとめる。	意見をまとめる。	意見をまとめる。		
代表が発表する。	代表が発表する。	代表が発表する。		
グループ間交流をする。				
本時の活動を振り返りまとめをする。(自己評価活動)				

11. 評価

【生き方や活動を振り返り行動できる技能・表現力】 課題追究活動を通して集約した成果を自分の生き方から振り返り考えたことやまとめたことを分かり易く聞き 手を意識して発表することができる。
評価の視点 情報の収集・分類・整理・加工など発表内容に情報活用能力についての足跡が見られるか。.....作品 発表内容を自分なりに分析し考察した上で自分の考えを意見としてまとめることができているか。...作品・観察
【体験や探究活動を通しての思考力・判断力】 意見交流の場で発表を受けて自分の考えを述べると共に友達の意見を参考にしながらさらに考えを深め、意見 交流を重ねながら自分の考えを確かなものとしていくことができる。

評価の視点

友達の発表内容から理由や根拠をはっきりさせて自分の考えを述べるができているか。.....行動観察
意見交流を重ねることで自分の考えより確かなものとするができたか。・・.....ワークシート

12 第6学年観点別評価規準個別表

単 元 名		名前				評 価
		評価規準	評価の観点			
			課題設定や解決への関心・意欲・態度	活動や体験を通じての思考力・判断力	生き方を振り返り行動できる技術・表現力	
な す あ り 学 習 で 育 て た い 資 質 や 能 力	情 報 活 用 能 力	・体験活動やメディア活用を通して情報を収集・整理したりしながら学習を進めるよさに気づき、生かしていこうとする。				
		・情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え望ましい情報社会の創造に参画しようとする。				
		・目的に応じて用途を考えながら必要な情報を集め、その情報を自分の観点から判断し工夫して、分類、整理・構成することができる。				
		・交流活動を通して多様な価値観を受け止め、情報を活用しながら自分の考えを深めることができる。				
		・各種メディアを有効に使って工夫して情報集め分類・整理・分析し、考察を加えて情報を発信、伝達・交流することができる。				
		・メディアを有効に活用して自分自身を表現しコミュニケーションを深めながらよりよい生き方を追求・表現することができる。				
	問 題 解 決 能 力	・自分の興味・関心や共通体験などから調べたい課題を見つけ見通しを持って計画的に追究しその成果を生かしていこうとする。				
		・多様な意見を取り入れながら活動を振り返り意欲的に粘り強く追究し考えを深めていこうとする。				
		・課題意識を持って追究活動を進め、自分の考えを深めながら問題解決をすることができる。				
		・自分のよさを生かし友達と協力し高め合いながら、よりよく課題追究していくことができる。				
		・調べたことや考えたことを効果的にまとめ、自分のよさを生かして伝える方法を工夫し分かり易く表現することができる。				
		・問題解決をしていく中で気づいたり、考えたりしたことを日常生活に生かし、よりよい生き方を実践していくことができる。				
	自 己 評 価 力・ 生 き 方 探 求 力	・めあてやねらいに沿って客観的に振り返り自己評価を生かしながら活動していこうとする。				
		・自己を律しながら粘り強く活動し、多様な意見を取り入れながら、よりよいものを創造し、問題を解決し日常生活に生かしていこうとする。				
		・めあてや評価項目に沿って自己の活動や生き方を評価しながら活動することができる。				
		・活動を通して得た新たな価値の自覚をもとによりよい生き方を探求することができる。				
		・学習の中で身につけた知識・技能・判断力・態度などを生かし自己客観視をしてよりよい生き方・活動の仕方を選択することができる。				
		・学習の成果をもとに自分の行動や生き方を見なおして自己実現にむけて日常生活に生かすことができる。				
	観点別評価					

(十分できている , ○ おおむねできている , 支援がなければできていない)

13 第6学年「育てたい資質や能力」に関する観点別評価項目一覧表

単元名		評価の観点	評価項目	名前										備考	
なすあり学習で育てたい資質や能力	情報活用能力	課題設定や解決への関心・意欲・態度	インターネットなどメディアを活用するよさに気づき、進んでメディアの特性を生かしながら情報を集めようとしている。												
			アンケートやインタビューなど体験的に情報を集めるよさに気づき、進んで体験的に収集しようとする。												
			集めた情報から根拠をもって課題を設定し追究していこうとする。												
		活動や体験を通じての思考力・判断力	集めた情報から自分なりの考えをはっきりさせ、深めることができる												
			意図やねらいをもってアンケートの質問事項を作成することができる。												
			収集した情報を正しく集計・分析し課題解決の方向を見つけることができる。												
		生き方を振り返り行動できる技術・表現力	必要な情報をメディアを使って収集するよさに気づき活用することができる。												
			つかんだ価値や生き方を受け手を意識して効果的に表現することができる。												
			交流相手の意見を尊重しながら互いに自分の思いを伝え合うことができる。												
	評 定														
	問題解決能力	課題設定や解決への関心・意欲・態度	自分の興味・関心や生活経験から生き方につながる課題を設定しようとする。												
			見通しをもって計画的に課題を追究していこうとする。												
			粘り強く課題意識を持って追究活動を進めることができる。												
		活動や体験を通じての思考力・判断力	より良いもの作り上げていこうと追究活動を工夫しながら進めることができる												
			追究活動を通して気づいたりわかったりしたことをもとに考え、自分にできることや身近にできることを具体的に見つけことができる。												
			多様な考え方の中から正しい生き方や考え方を見出し判断することができる。												
		生き方を振り返り行動できる技術・表現力	追究活動を通してつかんだ価値や考え方をもとによりよい生き方を選択できる												
			事実や資料など具体的な根拠をもとにして自分の意見や考えを伝えることができる。												
			つかんだ価値や生き方を自分なりの方法で表現し伝えることができる。												
	評 定														
	自己評価力・生き方探求力	課題設定や解決への関心・意欲・態度	自己の生き方を振り返り、適切な課題を設定することができる。												
			活動の振り返りを生かしながら課題追究しようとする。												
			既習の学び方を生かしながら進んでよりよい方法を見出して行こうとする。												
		活動や体験を通じての思考力・判断力	適切なめあてを設定しめあてを意識しながら活動をすすめることができる。												
			自己評価したことを次の活動に生かして追究活動をすすめることができる。												
			めあてや評価項目にそって正しく評価し判断することができる。												
		生き方を振り返り行動できる技術・表現力	多様な生き方や考え方の中からよりよい生き方を見つけることができる。												
			自分のよさを見つけ、そのよさを生かしながら実践していくことができる。												
			自己客観視を通してより良い生き方を追究し、互いに尊重し合いながら共に生きていく大切さを実践することができる。												
	評 定														

(十分できている , ◯ おおむねできている , 支援がなければできていない)